

# 「病棟検査技師」としての活動と その意義

中根生弥<sup>†</sup> 山田幸司 青山敦子第67回国立病院総合医学会  
(平成25年11月8日 於金沢)

IRYO Vol. 69 No. 2 (84-88) 2015

## 要旨

近年チーム医療の重要性が問われる中、「多職種連携」や「検査室外検査への取り組み」などといった具体的な業務を実践されている施設も増え、臨床検査技師の意識の中にその必要性が芽生え始めている。一方、人員的要因から多くの施設では、病棟検体回収、採取管準備、糖尿病教室への参画など一部の病棟支援は行っているものの、やはり主たる検査業務は検査室の中で実施されているのが現状である。そこでわれわれは、検査室の外に視点をおいた取り組みについて模索し、内科病棟に1名の病棟検査技師を専従配属した。また他の病棟には病棟支援担当技師が病棟からの問い合わせに責任をもって対応することを計画した。病棟検査技師はおもに食後採血から始まり各種病棟検査の実施や検査説明を医師・看護師と協力して行っている。また病棟支援担当技師はカンファレンスや病棟会議に出席し、各病棟からあげられる検査関連業務の問題点を聞き、病棟支援委員会の中で共有化を図り、病棟固有の問題か全病棟に該当するかを精査した上で対応を検討している。このような活動を続けることにより、今まで伝えきれなかった病棟スタッフの視点に立った有益な検査情報をスムーズに病棟に伝えることができるようになり、検査関連インシデントの低減やコミュニケーション向上が図れたことで、チーム医療職としての意識的変化が得られたことは大きな成果である。

キーワード 病棟検査技師, 病棟支援委員会, 多職種連携

## 病棟検査技師配置までの経緯

当豊田厚生病院のこれまでの病棟との関わりは、他施設同様、「病棟検体回収」・「採取管の準備」・「糖尿病教室への参画」など臨床検査室に軸足を置いた病棟支援業務が主体であった。

平成15年5月よりオーダーリングシステム導入と同時に検査室の業務拡大と、かねてから看護部門より要望のあった病棟での臨床支援に対応するため、「臨床検査科病棟支援協議会」を立ち上げ、平成15年7月より病棟検査技師(ward medical technologist: WMT)1名を腎・内分泌・膠原病病棟に専従派遣

JA 愛知厚生連豊田厚生病院 臨床検査技術科 † 臨床検査技師  
(平成26年3月10日受付, 平成26年11月21日受理)

Activity and Its Meaning as a "Ward Medical Technologist"

Ikuya Nakane, Koji Yamada, Atsuko Aoyama, The Aichi Prefectural Federation of Agricultural Cooperatives for Health & Welfare, Toyota Kosei Hospital, Department of Clinical Laboratory

(Received Mar. 10, 2014, Accepted Nov. 21, 2014)

Key Words: ward medical technologist, ward support committee, cooperation

表1 おもな病棟検査技師業務

- ・食後採血（朝8時30分以降依頼分、血液培養採血を含む）
- ・採尿（計測、蓄尿容器準備等）
- ・血糖自己測定の個人指導と指導内容のカルテ記載
- ・簡易血糖測定器による血糖測定
- ・安静時基礎代謝率測定
- ・グルコースモニターシステム（CGMS）データ管理
- ・各種負荷試験の補助（医師のサポート）
- ・患者への各種検査説明（生理学的検査、CT、RI、MRIも含む）
- ・血液製剤や分画製剤の搬送
- ・マルク採取補助
- ・サテライトPOCT機器管理（機器動作チェック、精度管理、清掃）
- ・糖尿病教室への参画、講義1回/週（1時間）
- ・腎臓病教室への参画、講義1回/月（1時間）
- ・看護学生（実習生）、新人看護師、研修医への教育およびサポート
- ・各種問い合わせ（医師や看護師への啓発も含め、病棟と検査室間で発生した問題に、速やかに対処し解決に導く）

したのが始まりである。さらに支援業務の水平展開による全病棟的支援を目指し、平成19年4月より検査科内に「病棟支援委員会」を設立し、病棟担当技師制による関わりの強化を図ると同時に、平成19年6月よりNST（栄養サポートチーム）ラウンドへの参画も開始した。平成20年1月には新病院への新築移転を機に、現在は内分泌病棟以外の入院患者への糖尿病ラウンドや血液内科の併設に合わせ、さらに病棟検査技師の活躍の場が増えている。

### 病棟検査技師の意義

病棟検査技師業務は、筆者らが臨床検査技師として勤め始めた30年前ではまったく発想のなかった業務形体であり、「緑の下の力持ち」的教育を受けてきたわれわれには臨床検査技師が医療の前線で業務を行うことは、おおよそ考えられなかった。しかし、近年の目覚ましい医療技術の進歩に加え、臨床検査手法の自動化・システム化等により、これまでの受動的検査室から医療の一端を担う臨床検査室として目覚めることが真の「臨床検査技師」の役割と考えられるようになってきた。その一つの体系として病棟検査技師の役割は重要であり、患者QOL向上に向けたチーム医療職として病棟検査を専門とする臨床検査技師の活躍の場が見出されてきた。このよう



図1 病棟での検査説明風景（職員で再現した）

な業務展開を重ねていくことで、病院機能として臨床検査科の存在意義をアピールすることもできたが、これは単に病院検査室の生き残りのために行うことではなく、検査結果がどのように判断され、治療に活かされているかを実践で学ぶことができる、臨床検査の醍醐味の一つであると考えている。

さらには臨床検査技師を目指す学生の臨地実習では、病棟支援の活動をレクチャーした上で実際に病棟ラウンドや研修会に参加することで、座学では身につけることのできない貴重な体験を実感することができ、毎年多くの学生より「臨床検査技師」を目指す目的がはっきりしてきたなどのアンケート結果をいただくことが多い。

### 病棟検査技師業務の実態

病棟検査技師は、腎・内分泌・膠原病・血液内科病棟を担当しているため、専門医からのニーズや関連する検査内容の多くが検体検査であることなどを考慮し、分析部門に配属した上で病棟検査業務を実施している。毎日朝8時30分-14時00分までは病棟検査業務を実施し、その後は検査室に戻って検体検査業務を担当している（表1、図1）。

また、病棟検査技師は専用PHSを携帯し、必要に応じて再度病棟に戻り業務を遂行することができるよう配慮しているため、追加検査の対応や患者への検査説明などいつでも病棟のニーズに合わせたフレキシブルな対応と検査室との橋渡しの業務を行っている。

表2 病棟支援業務一覧

病棟支援業務	業務・担当形態	構成委員数
病棟検査技師 (専従)	常勤	専従 1名
病棟担当技師 (専任)	病棟会議1回/月	委員 10名
糖尿病教室	毎週木曜日 60分	担当 3名
腎臓病教室	毎月1回 60分	担当 1名
NSTラウンド	毎週金曜日午前中	担当 3名
DMラウンド	毎週火曜日午前中	担当 2名
ICTラウンド	毎週火曜日午前中	担当 2名



図2 病棟会議での説明風景

### 病棟支援委員会の目的と活動実態

基本方針でもある「開かれた検査科」を目指し、臨床検査技術科全体で診療（病棟）支援を実施していくために、分析・形態・生体検査を担当する全部門の技師より委員を選出し、個人の専門性を生かしながら表2のような病棟支援業務を担当している。

この背景には、すべての病棟に臨床検査技師を配属することは人的要因より現実的には不可能であるため、いかにして全病棟的支援を実施するか観点から考えられた運用である。また病棟支援委員会の設置と担当委員の活動が下支えしていることは、他の検査スタッフにも浸透しており、新人看護師への初期研修や輸血手順の研修会など年間を通じて数多くの卒後教育的支援も検査科全体で担っている。



図3 看護師へのレクチャー風景

### 病棟支援担当技師業務の実態

各病棟には1-2名の病棟支援担当技師を選任し、専用PHSを携帯させ、担当病棟からの問い合わせ窓口を主として、①病棟会議への参加（病棟と検査科との橋渡し）、②DPC（包括医療費支払制度）対応クリティカルパスの作成協力、③病棟保管採取管の在庫管理（2回/年 在庫総入替）、④採血/輸血検査手順の説明会（研修医・看護師/毎年）、⑤医療安全委員会との連携により周知事項の徹底などの活動を中心に行っている。また毎月定例で行われている病棟会議に出席し、日常業務の疑問点抽出や検査科からの情報提供を行っている（図2、図3）。また新たな病棟からのニーズは、いったん検査科に持ち帰り病棟支援委員会で内容を精査検討した上で、必要事項は全病棟に展開するなど日常的な業務改善

を図っている。その改善点は「検査科Q&A集」にまとめ、全病棟に配布すると同時に、院内ホームページにて閲覧可能な体制を構築している。

また、毎年入職する新人看護師を対象とした「採血手技」や「輸血」に関する実践講習会は、新人看護師以外も参加できるように複数回に分けて開催することで、採血の危険性の再認識や技術的アドバイスも行っている。さらに安全な輸血を実施していく上では、輸血認定技師による「輸血検査の目的や血液製剤の取り扱い方」を中心に説明会も開催している。

### 病棟検査技師の配置効果

病棟支援業務を開始し現在4人目の病棟検査技師が業務を行うことができ、病棟スタッフからのアンケートよりいくつかの具体的な支援効果を得ることができた。その中でも「看護業務の負担軽減による、患者との対話時間の増加」、「技師による検査説明に

より、説明不足によるトラブルの減少」,「教育による検体採取ミスの減少と、医師、看護師の検査知識向上」など直接的・間接的な支援効果を実感する事項も多く、病棟検査技師の配属の有用性が認識できた。もちろん病棟支援効果は実施をすればただちに得られるものではなく、そこには病棟検査技師が病棟スタッフや患者との積極的なコミュニケーションが保たれて初めて目的（病棟支援）達成に向けての一步が踏み出せるのであり、その活動をサポートする検査科全体の協力が重要となる。よって他職種との協働により、「コミュニケーションスキルの向上」と「医療人としての自覚向上」は、臨床検査技師自身のためにもなっていることも実感できる。

---

### 病棟スタッフからの声（本音）

---

#### 1. 病棟に検査技師が配属されてよかった点は？

- ・特殊検査（採血）などの確認が迅速にできるため、無駄な時間を費やさなくてもよい。
- ・患者への事前検査説明が終わっているので、患者の検査出しがスムーズにできる。
- ・輸血関連検査の実施や血液製剤確認などを行っていただけるため安心できる。
- ・マルク骨髄採取などの病棟実施検査のタイムスケジュールが立てやすい。
- ・検査科とのパイプ役を担っていただけるため、看護業務のレスポンスが向上した。

このように、看護業務の効率化が直接的に実感できる事項が多く、臨床検査技師であるがゆえに実施できる業務であることがこれからの展開に生かせる部分と強く感じている。

#### 2. 追加実施して欲しい病棟業務はありますか？

- ・QFT（結核検査）など採血量や採血時間など制約が多い採血。
- ・早朝採血管の準備（予約+追加検査）と採血リストとの照合。
- ・病棟保管採取管の日常的な在庫管理。
- ・早朝採血（食前）もお願いしたい。
- ・検査のための車椅子・ベッド搬送の補助。

臨床検査科のマンパワーの問題もありすべてを実施に移すことは難しいが、夜勤看護師への業務負担軽減に向けての取り組みについて考える気づきとなった。

#### 3. 病棟検査技師配属を継続する上の要求事項は？

- ・性別は男女どちらでもかまわない。
- ・年齢（経験年数）的には、新人でなければとくに問わない。
- ・患者や他のスタッフに気配りができ、社会的なコミュニケーション能力が図れる技師。
- ・スキルの高いスペシャリストよりも、検査全体を広く理解し検査科との風通しのよい技師。
- ・配属期間は1から2年でのローテーションでも可能である。

など、高度な要求事項は少なく、われわれも計画的なローテーションも可能であると認識できたので、なるべく多くのスタッフに病棟検査技師としての経験を積んでいただき、チーム医療職としての臨床検査を実践し、患者心理を学ぶことのできる機会としたい。

---

### ま と め

---

当初、われわれが実践してきた病棟支援業務もなかなか配置当初は受け入れられなかったが、病棟検査技師の努力と検査科のサポートを続けることで徐々に変化が現れ、現在では病棟検査技師の配置は病棟スタッフにも広く認知され、チーム医療職の一員として活躍している。いずれにしても、病棟にはまず出て行く“はじめの一步”が肝心であり、頭で考えるのではなく行動することが重要だとあらためて痛感した。今後、病棟業務への関わりを検討される際は、途中で息切れ（中断）してしまうような計画では逆効果となりかねないため、自施設（検査部）の身の丈に合わせた展開方法を検討することが重要と考える。決して一足飛びに結果を求めず、共感・理解していただける医師、看護師と根気よく長期計画的な構想で取り組むことが肝心であり、その行動は最終的に患者・病院・本人のためになっていることが認識できるはずである。

〈本論文は第67回国立病院総合医学会 シンポジウム「次世代に向けた臨床検査の展望」において「病棟検査技師としての活動とその意義」として発表した内容に加筆したものである。〉

**著者の利益相反：**本論文発表内容に関連して申告なし。

---

[文献]

1) 山田幸司. 【チーム医療と臨床検査 チーム医療ネットワーク・臨床検査関連企業の支援】 チーム医療各論 病棟業務 運用事例(1). 臨病理レビュー 2009 ;

144 : 192-4 .

2) 中根生弥, 山田幸司, 青山敦子. 「病棟検査技師」としての活動とその意義 - “はじめの一步” を踏み出そう, Med Technol 2011 ; 39 : 966-8 .